

CD 550 点突破

TOEFL® TEST ボキャブラリーUP 徹底講座

宮前 一廣 著
ILCC 監修



頻出テーマ52の重要単語がガッチリ身につく!!

1st STEP テーマ別の重要単語を「読んで」チェック!

2nd STEP 重要単語の詳しい意味や関連用語を「ガッチリ」チェック!

3rd STEP CDを使って1st・2nd STEPで学んだ内容を「最終」チェック!

新星出版社

●著者紹介●

宮前 一廣 (みやまえ かずひろ)

1955年福井県生まれ。カンサス大学大学院言語学科修士課程修了(M.A.)。専攻は統語論、形態論。現在は武蔵大学非常勤講師を務めている。著書に『英単語マジック』(日本実業出版社)、『やさしい英会話』(ニュースビート)、『TOEFL対策明解リーディング』(テイエス企画)、『日英比較前置詞の文法』(松柏社)などがある。

●監修者紹介●

(株)ILCC (International Language and Culture Center)

「異文化コミュニケーションにおける多様なニーズに応える」ことを企業理念として1976年に創立。国際シンポジウムの運営、市場調査等を主とした企業間、地域間の国際ビジネス戦略、文化交流に関する事業を展開。その一環で英文、仏文を中心に翻訳、監修も多数手がける。

TOEFL® TESTボキャブラリーUP徹底講座

1999年3月25日 発行

著者	宮前 一廣
発行者	富永 弘一
印刷所	公和印刷株式会社

発行所	東京都台東区 台東4丁目7	株式 会社	新星出版社
〒110-0016 電話(3831)0743 振替00140-1-72233			

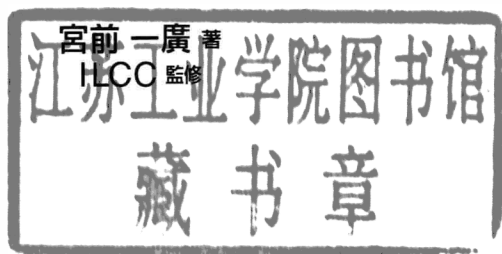
©Kazuhiro Miyamae

Printed in Japan

ISBN4-405-02572-X

CD 550 点突
付

TOEFL® TEST ボキャブラリーUP 徹底講座



頻出テーマ52の
重要単語が
ガッチリ身につく!!

新星出版社

はじめに

現代は「国際化」の時代だといわれ、国際的公用語としての英語を話し、聞き、理解できる能力がますます求められています。また、このような時代に、海外へ留学して学ぼうとする人もますます増えています。そして、アメリカやカナダの大学（大学院）へ留学することを考えている人が取り組まなければならないことの一つに、TOEFL® TESTがあります。

TOEFL®とは、Test of English as a Foreign Languageの略で、文字通り「外国語としての英語の試験」であり、英語を母国語としない留学希望者が受けるテストです。

本書は、海外留学を目指してTOEFL® TESTを受験しようとしている皆さんを主な対象に執筆しており、「ガイド編」と「ボキャブラリーUP編」のふたつのパートから構成されています。

ガイド編では、TOEFL® TESTの概略について説明し、さらにTOEFL® TEST受験ガイドとアメリカやカナダの大学へ留学するためのガイドを掲載しました。それに続くボキャブラリーUP編では、TOEFL® TESTで頻繁に出題される52のテーマを取り上げて解説しています。まず1st stepでは、それぞれのテーマの概略を解説しながら重要単語を示し、2nd stepでは、重要単語や関連用語の詳細な解説を行っています。さらに3rd stepでは、CDを使用しながら、それまでに学んだ内容の定着を図るための「チェック・テスト」に取り組むという構成で、段階的に学んでいくことができます。

このように、3つのstepを順に学んでいくことで、TOEFL® TESTで頻出される52テーマの基礎的な知識とボキャブラリーの力を磨き、本書を通じてTOEFL® TESTのスコア550点を突破する実力が、自然に身につけられるようになっています。

ボキャブラリーの力を含めた英語力をアップするには、なによりもまず本書のようなテキストを着実に、しかも繰り返し学んでいくことです。わからないことがあってもあきらめずに努力を重ね、皆さんがご自分の目標を達成されることを願っています。

最後になりましたが、本書を執筆するにあたり、監修のご協力をいただいた㈱ILCCのスタッフの方々に、心から感謝いたします。

著者

CONTENTS

はじめに	3
本書の特徴と効果的な使い方	8

ガイド編9

SECTION1 TOEFL® TESTとはなにか10

アメリカ・カナダの大学入学に必要な語学テスト／合否を決めるテストではない／TOEFL® TESTは3つのセクションに分かれている／Section1 Listening Comprehension／Section2 Structure and Written Expression／Section3 Reading Comprehension／準備と心構え／最新のTOEFL® TEST情報

SECTION 2 TOEFL® TEST受験ガイド16

いつ行われるか／どこにどう申し込むか／TOEFL® TESTのスコアはいつまで有効か

SECTION 3 アメリカ留学ガイド18

留学のススメ／実力派を目指すための留学／学力はそれぞれの大学で違う。重要なのは英語力／経済力もきちんと考えて／留学に向けた大学のシステムと種類／目的や内容によって選ぶ大学の中身／二年制のカレッジ／四年制大学（総合大学、四年制カレッジ）／大学院（グラジュエート・スクール、プロフェッショナル・スクール）／ノンディグリー・スチューデント／カナダへの大学留学／大学選びのチェックポイント／留学の手順と方法／入学資料・願書の請求と提出／入学手続き（入学許可から渡航まで）

ボキャブラリーUP編29

SECTION1 School Life 学校生活30

1 学校 School	30
2 履修登録 Registration	35
3 期末試験 Final Exams	39
●チェック・テスト 学校、履修登録、期末試験	43

SECTION 2	Leisure Time	余暇	46
1	スポーツ	Sports	46
2	休暇	Vacation	50
●	チェック・テスト	スポーツ、休暇	54
SECTION 3	Life	生活	56
1	保険	Insurance	56
2	アパート	Apartment	60
●	チェック・テスト	保険、アパート	65
3	衣服	Clothes	67
4	料理	Cuisine	71
5	住宅	House	75
●	チェック・テスト	衣服、料理、住宅	79
6	天気	Weather	82
●	チェック・テスト	天気	87
SECTION 4	Science	科学	89
1	化学	Chemistry	89
2	物理	Physics	93
3	天文学	Astronomy	97
●	チェック・テスト	化学、物理、天文学	101
SECTION 5	Math	数学	104
1	数学	Math	104
2	単位	Units	108
●	チェック・テスト	数学、単位	112
SECTION 6	Health	健康／医学	114
1	解剖学	Anatomy	114
2	病気	Disease	118
●	チェック・テスト	解剖学、病気	122
SECTION 7	Agriculture	農業	124
1	生産物	Products	124
2	菜園	Vegetable Garden	128
●	チェック・テスト	生産物、菜園	132

SECTION 8 History 歴史134

- 1 ネイティブアメリカン Native Americans134
- 2 植民地 Colony138
- チェック・テスト ネイティブアメリカン、植民地142
- 3 独立戦争 Revolutionary War144
- 4 南北戦争 Civil War148
- チェック・テスト 独立戦争、南北戦争152
- 5 フロンティア Frontier154
- 6 大恐慌 Great Depression158
- チェック・テスト フロンティア、大恐慌162

SECTION 9 Politics 政治164

- 1 議会 Congress164
- 2 大統領 President168
- 3 裁判所 Courts172
- チェック・テスト 議会、大統領、裁判所176

SECTION 10 Economy 経済179

- 1 会社組織 Corporations179
- 2 株式 Stocks183
- チェック・テスト 会社組織、株式187
- 3 銀行 Banks189
- 4 貿易 Trade193
- 5 労働 Labor197
- チェック・テスト 銀行、貿易、労働201

SECTION 11 Environment 環境204

- 1 公害 Environmental Pollution204
- 2 温暖化 Greenhouse Effect208
- チェック・テスト 公害、温暖化212
- 3 食物連鎖 Food Chain214
- 4 イエローストーン国立公園 Yellowstone National Park218
- チェック・テスト 食物連鎖、イエローストーン国立公園222

SECTION 12 American Culuture	アメリカ文化	224
1 音楽 Music		224
2 映画 Movies		228
3 演劇 Theater		232
●チェック・テスト 音楽、映画、演劇		236
SECTION 13 Media	メディア	239
1 テレビ Television		239
2 新聞 Newspapers		243
●チェック・テスト テレビ、新聞		247
SECTION 14 Art	芸術	249
1 絵画 Pictures		249
2 建築 Architecture		253
3 彫刻 Sculpture		257
●チェック・テスト 絵画、建築、彫刻		261
SECTION 15 Linguistics/Psychology	言語学/心理学	264
1 言語学 Linguistics		264
2 心理学 Psychology		268
●チェック・テスト 言語学/心理学		272
SECTION 16 Anthropology	人類学	274
1 文化人類学 Cultural Anthropology		274
2 考古学 Archaeology		278
●チェック・テスト 文化人類学、考古学		282
SECTION 17 Animals and Plants	動植物	284
1 生物 Biology		284
2 生態 Ecology		288
●チェック・テスト 生物、生態		292
INDEX		294

本書の特徴と効果的な使い方

本書は、ボキャブラリーの力をUPさせることで、TOEFL® TESTのスコア550点を突破する実力が身につくように、52の頻出テーマをとり上げて書かれています。

●アメリカ・カナダの大学留学に役立つガイド編と52のテーマ

本書の「ガイド編」では、TOEFL® TESTの特徴や受験ガイド、留学のための情報などが解説しており、ボキャブラリーUP編の52テーマの解説とともに、アメリカ・カナダの大学留学に役立つものとなっています。

●step順に読み進めることでボキャブラリーの実力を磨く

本書の「ボキャブラリーUP編」は、1st stepから3rd stepまでの3つのstepで構成されています。

1st step

重要単語を交えた各テーマごとの日本語解説を「読む」ことで、テーマについての知識と単語を同時に学べます。

2nd step

重要単語についてのさらに進んだ学習のために、関連用語も含めた詳細な解説を行っています。

3rd step

これまでに学んだ重要単語の例文をランダムに並べ、CDの音声を「聞く」ことや重要単語を「書く」ことで、ボキャブラリーの定着を図ります。また、チェック・テストの各問題文のうしろには、その単語が解説されている2nd stepのページを記してあります。間違えた問題や単語の意味を確認するときなどに参照してください。

●CDの使い方

本書には、主に3rd stepを学ぶときに使用するCDがついています。このCDには、CDマーク  がついているチェック・テストの音声が入っています。それらの音声については右ページの上端などにトラックナンバーが示されており、そのトラック・ナンバーを使って検索すれば、聞きたいチェック・テストの音声を簡単に選び出したり、繰り返し聞いて学習することができます。

トリスで学歴を要しない大学入試のやり方・仕組み

ガイド編

● アメリカ・カナダの大学入学に必要な語学テスト

TOEFL®とはTest of English as a Foreign Languageの略で、英語を母国語としない外国人がアメリカ・カナダの大学（大学院）へ留学する際に、その大学（大学院）に入学できる語学力があるかどうかを判定するためのテストです。

留学するとすぐに大学での厳しい授業が待っています。勉強だけでなく、友人づくりを始め、学生生活にも慣れていかなければならないのです。このために、TOEFL® TESTでは単に英語を聞き、話し、書くという語学力だけでなく、実際に留学して即座に大学の授業を理解し、



周囲の学生や教師たちと交流できるだけの知識も必要になってきます。このため、アメリカ、カナダの歴史、政治、経済、文化などについての専門用語や学術用語を知っておくことも重要になるのです。TOEFL® TESTがTOEIC® TESTや英検など他の英語テストと異なる点がここに 있습니다。いわば、アメリカとカナダの大学留学だけに焦点をあてたテストなのです。

● 合否を決めるテストではない

TOEFL® TESTは合格、不合格を決めるテストではありません。ですから、何点とれば合格して留学を認められるというものではなく、あなたの英語力がどの程度あるかをスコアで示してくれるテストです。アメリカの大学では「ウチの授業についていくにはTOEFL® TESTの点数は最低これだけ必要ですよ」と、入学要項などに明示しています。それを目標にして勉強するわけです。

では、だいたいどれくらいのスコアをとれば、留学することができるのでしょうか。TOEFL® TESTは各テストの難易度に多少の差があります。これを公平にするために各回ごとに偏差値が定められており、スコアはこれに基づいて

計算されます。最高スコアは677点で、最低スコアは200点ですが、一般的に学部レベルで必要とされるスコアは500～550点くらいです。これは入学を希望する大学や学部のレベルによって差があります。このあたりのスコアをあえて英検と比較するなら、準1級レベルくらいです。まずは、500点とることを目標とするとよいでしょう。

● TOEFL® TESTは3つのセクションに分かれている

留学に必要な総合力を試すため、TOEFL® TESTは大きく以下の3つに分かれています。

セクション	内 容	設 問 数	解答時間
Section 1 聴き 取り	Listening Comprehension 聴解 (リスニング能力を試す) Part A Short conversations 会話 Part B Longer conversations Part C Several short talks	30問 8 問 12問	35分
Section 2	Structure and Written Expression 構文と表現力 (構文、文法、表現力を試す) Part A Structure Part B Written Expression	15問 25問	25分
Section 3	Reading Comprehension (読解力を試す)	50問	55分

● Section 1 Listening Comprehension

Section 1はListening Comprehensionで、3つのパートからなっています。各パートともテープによる出題で、問題用紙には解答の選択肢が4つ示されているだけです。また、テープはどの設問についても1回のみの放送で、しかもメモを取ることは禁じられているという、なかなか手強いテストです。設問はパートAからCまで全問50問、各設問の解答時間は約12秒。解答を迷っているヒマはなく、解答の(A)、(B)、(C)、(D)を速読し、とにかくマークシートを塗りつぶす、といった即断力が要求されます。

Part A Short conversations

二人による短い会話を聞いて、ナレーターの質問に答えるというものです。ナレーターは、ほぼ毎回“What does the man (woman) mean?”と質問してき

ます。

Part B Longer conversations

二人による1分から1分半ほどの会話が2つ用意されています。各会話に対して設問が4つ、合計8つの設問になります。その多くは学校内での友人同士の会話という設定です。

Part C Several short talks

このパートは会話ではなく、1分程度の一人のトークです。その内容は大学での先生の講義やアドバイザーの説明、天気予報、ニュースなど、キャンパスや日常生活で出会うことばかりで、3つのトークが用意されています。各トークに対して4つ、合計12の設問に答えます。

●攻略のポイント

part Aではイディオムについての出題もあります。本書では各セクションの2nd step「頻出単語」の解説でイディオムを取り上げているものもあります。おさえておきましょう。また、part Cはアメリカの様々な分野についての知識があれば、多少単語が聞き取れなくても何を説明しているのか分かり、理解がぐっと深まります。本書の1st stepでは特に頻出されるトピックを、重要英単語を交えた日本語で説明しています。単語ばかりでなくアメリカ事情についても勉強しておきましょう。

リスニングの上達に近道はないと言えます。短期間で聞き取れるようになるためには、寝る間も惜しんで英語漬けになって常に英語を聞き続けでもしない限り難しいでしょうし、たとえそういう状況になっても突如霧が晴れるように全て理解できる、などということもありえません。それよりは、常日頃から英語のニュースや会話、スピーチなどを、本書のCDやテレビ、ラジオ、テープなどで聞き、慣れておくこと。それもできれば1日最低1時間は聞き続けることを半年以上実行してみることです。

同じ内容を繰り返し聞くことも大切です。TOEFL® TESTでは短い会話が主になりますが、対策としてのリスニングの勉強ではある程度長い内容を聞き、実際の会話やスピーチのスピードやリズム、強弱の付け方などに慣れるようにしておくことです。ある程度内容が聞き取れると自信がついてきます。リスニングはこの“ある程度は聞き取れる”という自信が重要です。自信がないと緊張し、短い時間のなかではとくにパニックに陥ってしまいがちです。それを防ぐために、リスニングの訓練ではまず、全部を分かつとすることはなく、大

体を聞き取れるようにすること、そしてあとは推測するようにしてやることです。そうやってリスニング能力は徐々に向上していくものなのです。毎日の積み重ねで英語を聞き取る力をつけることが、自信にもつながるのです。

● Section 2 Structure and Written Expression

このセクションは英語の構文や文章表現についての理解を問う出題がなされます。Part A StructureとPart B Written Expressionに分かれており、設問はそれぞれ15問、25問で全部で40問、これを25分間で解答していきます。最初の15問は穴埋め問題で、もっとも適切な語（句）を4つのなかから選ぶもの、次の25問は設題の中の4つの箇所から間違いを探し、記号で答えるものです。

● 攻略のポイント

ここは英文法の知識が重要です。ある意味で、受験英語をくぐってきた人ならとてもやりやすいセクションといえるでしょう。TOEFL® TESTでは、とくにこのセクションについては、問題の傾向がはっきりしています。文型、動詞の時制や態、形容詞や前置詞、冠詞、慣用句、イディオムなどが問われます。したがって、それにそって類似問題や模擬問題を数多くこなして傾向をつかむこと、これにつきます。この手の問題は短期間の学習で高得点が期待できますので、ぜひ頑張ってください。当然のことながら、ここでも出題のトピックは学術的、あるいはアメリカ事情に関することが多いので、文法を勉強すると同時に本書を通じて学術用語などを学んでおくといでしょう。

● Section 3 Reading Comprehension

セクション3では読解力を試します。5～6つの英文が出題され、それぞれに関する設問に対して正しい答えを選びます。設問は各問題文に対して約10問、解答時間は55分です。

一つの英文は約200～350ワードの長さで、これを全部読み、なおかつ設問に答えていくのは大変です。まず最初に設問を読み、何が問われているのかを把握してから問題に取り組むことも短時間で攻略する方法の一つです。

● 攻略のポイント

このセクションはボキャブラリーの豊富さが勝負の鍵を握っているといっても過言ではありません。直接に単語の意味を問う出題もあり、より多くの単語を知っているものが有利です。とはいっても、単語によっては文脈により意味

の変化するものもありますから、より多くの文にあたり文章のなかで覚えてしまるのがベストの方法です。本書はそれを意図して単語解説中に例文をあげてあります。また、同時にTOEFL® TESTによく出題されるトピックにはいわゆる専門用語、技術用語が出てきます。本書の1st stepで取り上げているトピックはまさにそれらの用語を理解し覚えるために最適です。本書を最大限に活用し、ぜひボキャブラリーを増やしていきましょう。

● 準備と心構え

TOEFL® TESTは大きく分けて3つのセクションがあり、とにかく問題の量が多いことが特徴です。初めてテストを受けると、緊張も手伝い最後まで終わらないこともしばしばあります。しかし、どんなテストにも傾向と対策があるので、TOEFL® TESTにももちろんあります。対策としては、まずその出題形式に慣れることです。そのためには数多くの模擬問題をこなすこと。大まかに自分で時間配分ができること。そしてマークシート式の設問に即答できるように練習することです。それと同時にもう一度高校レベル程度の英文法を勉強し、本書のCDやラジオの英語講座などで耳を馴らし、さらに前述したように大学で必要とされる学術用語、専門用語を覚えることです。

● 最新のTOEFL® TEST情報

1995年7月から6年間をかけてTOEFL® TESTの出題傾向は変わりつつあります。これは留学しても困らないレベルを正確に判定するために、コミュニケーション重視の問題へと改正が加えられているからです。このプロジェクトはTOEFL 2000と呼ばれています。急激に試験内容やレベルが変更するわけではないのでアセることはありませんが、今後TOEFL® TESTを受験しようとする人は、このテストが留学の現実に即してよりコミュニケーション的な内容になるのだということを知っておくとよいでしょう。

また、コンピュータによる試験が導入され(2000年頃から)、ペーパーテスト形式がなくなることにも決まっています。現時点でわかっているコンピュータによる試験の内容を簡単に説明しておきます。

これまでのペーパーテストがコンピュータによる試験に変わることで、コンピュータのマウスを使って解答することになります。そのほか、以下のような特徴があります。



- writingの試験が独立したひとつのセクションとして必修になる。
- リスニングとストラクチャーの問題では後戻りをして解答することができなくなる。
- リスニングでは画面に画像が現れる。
- 選択肢を2つ選んだり、問題文中の単語やセンテンスを直接クリックする新しい解答方法が加わる。

このように、これまでのペーパーテストの廃止で新しい対応が必要になってきますが、いずれにしてもTOEFL® TESTがアメリカやカナダに留学するための英語力を測定する試験であることに変わりはありません。